

いわきの 保存樹木・保存樹林



いわき市

目次

Contents

1	保存樹木・保存樹林制度について	1
2	保存樹木	2~7
3	保存樹林	8~9
4	樹木について	10~12
5	保存樹木・樹林位置図	13

いわき市の木・花



くろまつ(昭和46年10月1日制定)

当地方の季候風土は、松の育ちに適しており、「いわき七浜」の白砂青松の景勝と陸前浜街道の松並木は広く知られています。

松は百木の長といわれ成長力が強く、造園の核となるものとして欠かせず、本市の発展を象徴しています。



つつじ(昭和48年3月20日制定)

「つつじ」類は、野生種のほか園芸品種が多く、造園・盆栽等広く一般に栽培されています。

本市には、つつじで有名な公園や野生の群落があり、開花の季節には色々な色彩の花が美しく、人々に親しまれています。

1 保存樹木・保存樹林制度について

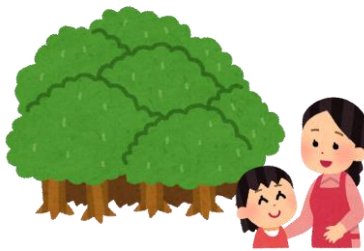
制度概要



自然環境と美観風致の維持確保



うるおいのある市民生活



緑化推進と緑化知識の啓発



巨木・古木を後世に残す

これらを目的として、「いわき市緑の保護及び緑の育成に関する条例」に基づき、樹木または、その集団を保存樹木または保存樹林として指定し、大切に保存していく制度です。

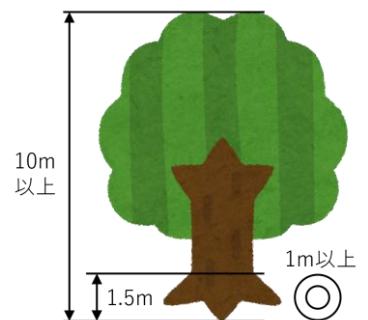
指定基準

樹木 次のいずれかに該当し、健全で、かつ樹容（木のすがた）が美観上特にすぐれていること。

- ①1.5mの高さにおける幹の周囲が1.0m以上であること。
- ②高さが10m以上であること。
- ③株立ちした樹木で、高さが2.5m以上であること。
- ④はん登（つる）性樹木で、枝葉面積が25㎡以上であること。

樹林 次のいずれかに該当し、その集団に属する樹木が健全で、かつ、その集団の樹容が美観上特にすぐれていること。

- ①その集団の存する土地の面積が300㎡以上であること。
- ②生垣をなす樹木の集団で、その生垣の長さが30m以上であること。



条例関係

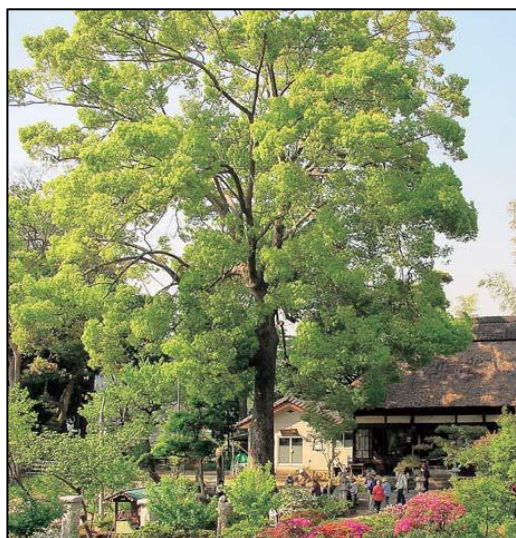
「いわき市緑の保護及び緑の育成に関する条例」のうち、保存樹木・保存樹林制度に関する規定の概要は次のとおりです。

第5条関係 良好な自然環境の確保又は美観風致を維持するために、所有者の同意を得て指定する。また、あらかじめ環境緑化審議会の意見を聞かなければならない。所有者に対し、枯損の防止その他の保全について必要な助言及び援助をする。

第6条関係 保存樹木等を指定したときは、これを表示する標識を設置する。

第7条関係 何人も大切に保全するよう努める。また、所有者は枯損の防止その他の保全に努める。

第9条関係 所有者は、伐採・譲渡するときはあらかじめ、また、滅失・枯死があったときは遅滞なく市に届け出をする。



指定15 クスノキ

- 所在地/平小泉字東164(瑞光寺)
- 指定/S53.3.10
- 樹高/24.7m ■幹周/2.7m

暖温帯照葉樹林域南部の樹木で北限は茨城県です。湿った肥沃な土地を好み巨木になり、半球状の樹冠はたくましい姿であり、公園や学校によく植えられます。波打つ葉の葉脈がはっきり見え、葉をもみ、材を削ると芳香がただよい樟脳油がとれます。葉はアオスジアゲハ（蝶）の幼虫が食べます。



指定16 クスノキ

- 所在地/錦町御宝殿31
- 指定/S53.3.10
- 樹高/20.0m ■幹周/4.0m

暖温帯照葉樹林域南部の樹木で、自生の北限は茨城県ですが保護すれば育ちます。湿った肥沃な土地に育ち、巨木になり、半球状の樹冠は壮大でたくましい印象を与えます。葉をもみ、材を削ると芳香がただよい樟脳油がとれます。寺社の植栽木は明治28年、日清戦争の戦勝祈願に植えたといわれます。



指定17 ヤマナシ

- 所在地/内郷小島町花輪
- 指定/S53.3.10
- 樹高/17.0m ■幹周/1.9m

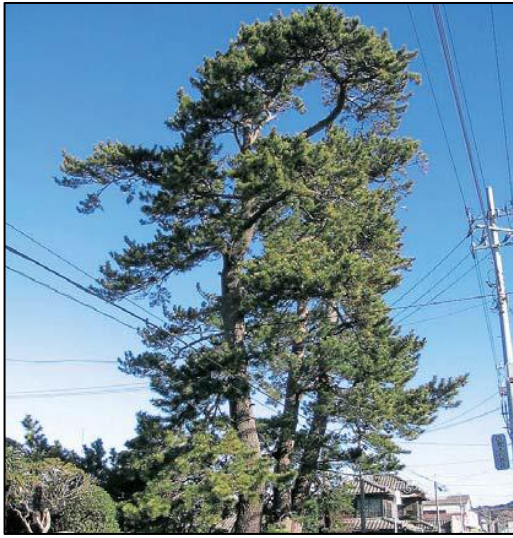
中国・日本の暖帯温帯に育つ樹木で、山腹から谷すじの湿っぽく明るい土地に自生します。ナシはこれを元に栽培され園芸品種化されたもので多くの品種がつけられました。この木は植えられたものと思われるが、いわきの銘果の起源を訪ねるにあたり有用です。



指定26 ケヤキ

- 所在地/植田町八幡台2(八幡神社)
- 指定/S53.3.10
- 樹高/30.0m ■幹周/3.7m

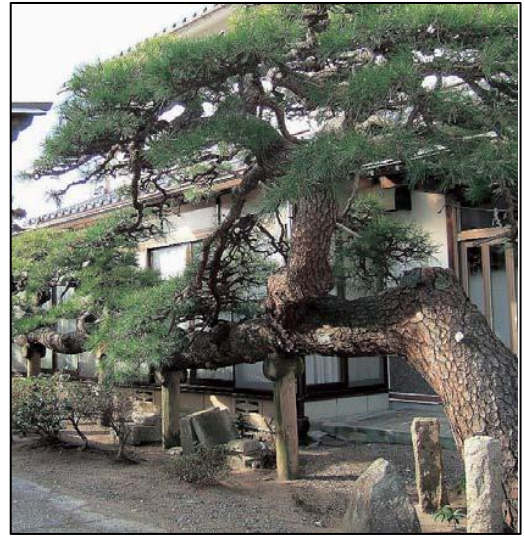
温帯の樹木で日本全国に分布します。水分の多い崖崩れ地や扇状地氾濫原のような明るい肥沃な土地を好み大木に育ちます。この木は箒を逆立てたようなケヤキ独特の優美な姿を保っている木です。



指定32 クロマツ

- 所在地/四倉町字西二丁目4-12
- 指定/S54.3.31
- 樹高/18.9m ■幹周/2.4m

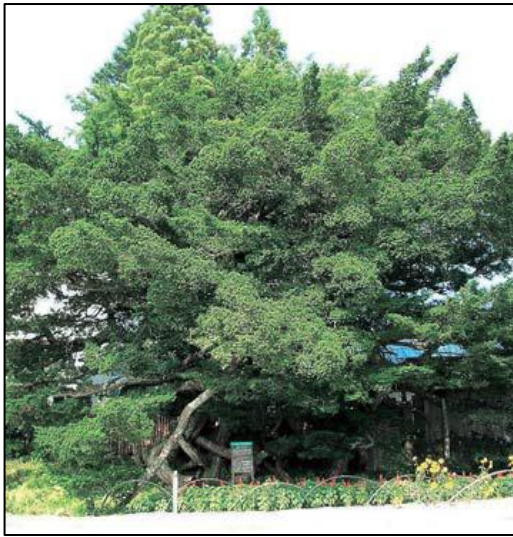
暖かい地方の海岸に生えるマツで砂丘や断崖のような環境にも生育します。この木は今から約300年前、平藩内藤氏の時代に植えられた旧陸前浜街道の並木です。間隔が狭いのは苗木の時に植えられたまま今日に至ることを示し、昔は街道を往来する人々に休息を与え今は環境浄化等に役立っている歴史的記念物です。



指定33 クロマツ(青龍の松)

- 所在地/久之浜町久之浜字中町16(諏訪神社)
- 指定/S54.3.31
- 樹高/4.0m ■幹周/1.5m

暖かい地方の海岸に生えるマツで砂丘や断崖のような環境にも生育します。この木は地元のクロマツを移植し盆栽的手法で数百年にわたって龍に似せてつくりあげたものです。日本人は古くから風雪に耐え常緑の葉を茂らせ曲がりくねった幹や枝の造形的な樹木を好み、神木として日本人の心に宿ってきた木です。



指定39 キャラボク

- 所在地/川前町小白井字大小屋3
- 指定/S54.3.31
- 樹高/8.0m ■幹周/3.1m

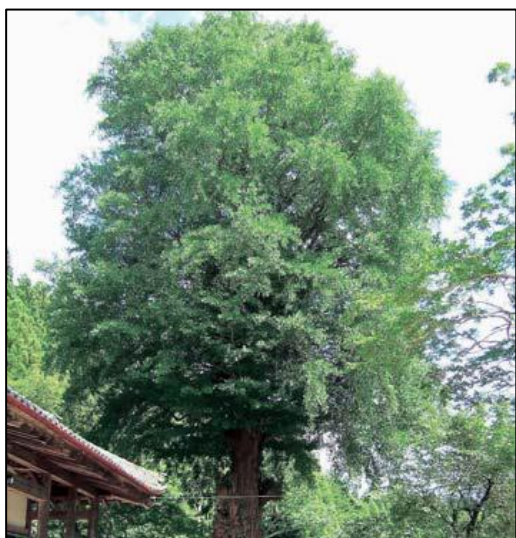
常緑高木イチイの低木化した変種で、幹は横に這った多雪に適応した樹形です。曲折した樹幹は網目状に入り組んで奇態を呈し庭木として珍重され、大木なので村人から尊敬され親しまれてきました。阿武隈山地の各地に植栽され、地域景観の維持に役立っています。



指定40 イブキ

- 所在地/久之浜町田之網字横内16
- 指定/S54.3.31
- 樹高/13.0m ■幹周/2.6m

三陸、いわき、茨城、房総の暖かい海岸に跳躍的局地的に自生地があります。いわき海岸には塩屋崎・江名の海岸にもありますが、大木に育っていません。樹幹は、ねじれ斜上する枝のために変化に富む樹形となり庭園木として園芸種もつくられています。民家の植栽は波立寺の信仰に由来しています。



指定43 イチョウ

- 所在地/三和町合戸字内畑35(光福寺)
- 指定/S54.3.31
- 樹高/23.3m ■幹周/4.4m

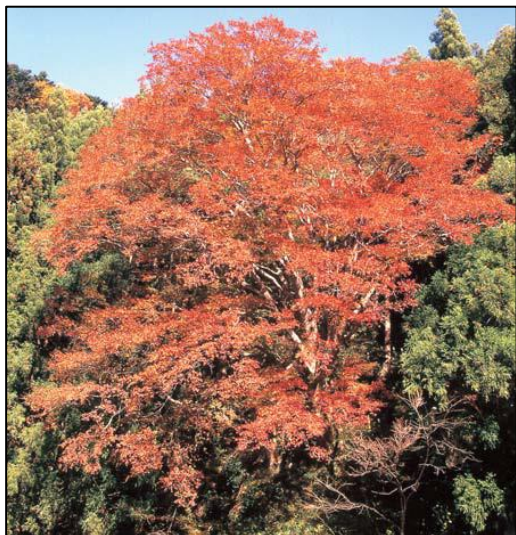
中国原産の樹木で仏教文化の伝来と関係深い木です。古くから神社や寺院に植えられ、今は街路樹や庭園木としても植えられています。土地を選ばない性質から、とてもよく育ち大木になります。今から約1億年も昔、中生代に恐竜と共に栄えた木の子孫で「生きている化石」と呼ばれます。



指定51・52 ケヤキ

- 所在地/平字九品寺町6-1(九品寺)
- 指定/S54.3.31
- 樹高/25.0m ■幹周/5.4m
- 樹高/25.0m ■幹周/4.0m

温帯に生育する落葉広葉樹で肥沃な土壌を好みます。この木は夏井川下流の肥沃な沖積平地に育ったもので、竹箒を逆立たたようなケヤキ独特の優美な姿を保っている木です。



指定55 イロハカエデ

- 所在地/田人町石住字綱木
- 指定/S54.3.31
- 樹高/21.3m ■幹周/3.3m

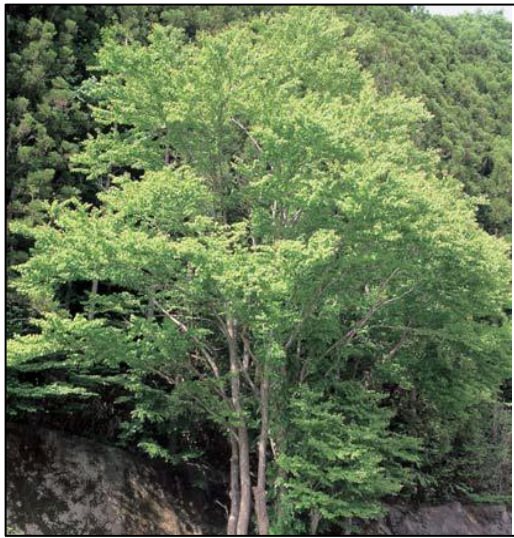
暖温帯のカエデで、いわき市では丘陵から阿武隈山地溪谷部に生育しています。秋に強い日差しのもとに光合成で炭水化物がつくられ、夜急に冷えると葉に離層ができ同時に赤い色素ができて鮮やかに紅葉します。この木は自生でケヤキ等と深い谷間に育ち秋には華やかに色づきます。



指定58 ヤマザクラ(石割桜)

- 所在地/田人町旅人字横根
- 指定/S54.3.31
- 樹高/13.8m ■幹周/5.0m

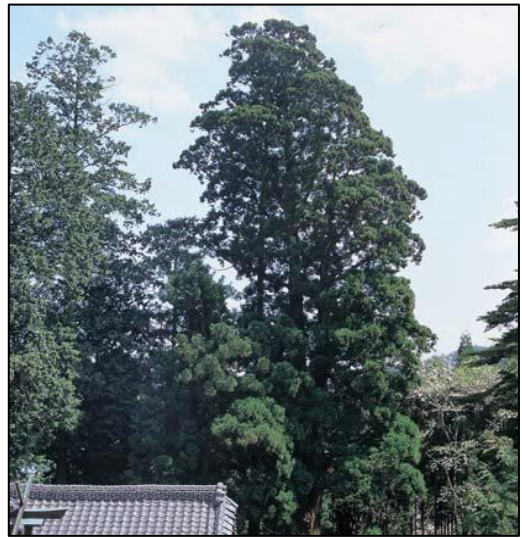
暖地の桜で阿武隈山地が北限といわれています。阿武隈山地や丘陵部の日当たりのよい自然林に自生し、ソメイヨシノより遅く赤味を帯びた葉と共に淡紅色の花が咲きます。道端の大きな花崗岩の割れ目から石を割ったように太い根が出ている姿から地域の人々は「石割桜」と呼び、花の時期には樹冠が道路を覆って桜の天蓋になります。



指定59 カツラ

- 所在地/田人町旅人字和再松木平
- 指定/S54.3.31
- 樹高/11.7m ■幹周/3.5m

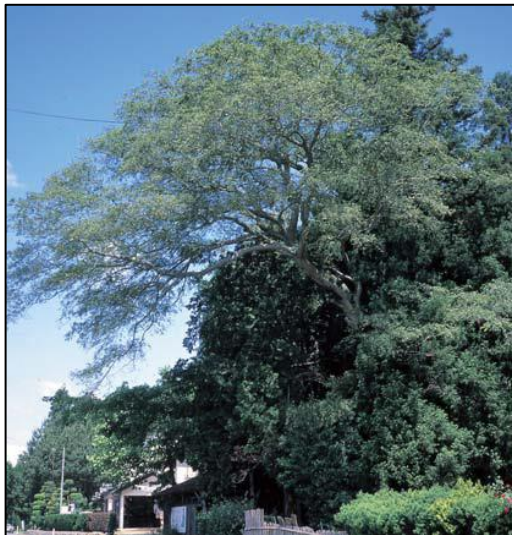
冷温帯の溪谷に生育する株立ちの木です。中生代の地層から葉の化石が採れ、原始的被子植物に位置付けられています。本樹は道路建設の際、入旅人川沿いから移植したもので、川底へ根を伸すほど水を要求し耐久性のある木です。春のハート形の新葉が美しい樹木です。



指定65 スギ

- 所在地/遠野町根岸字橋場地内(諏訪神社)
- 指定/S55.9.1
- 樹高/38.0m ■幹周/4.9m

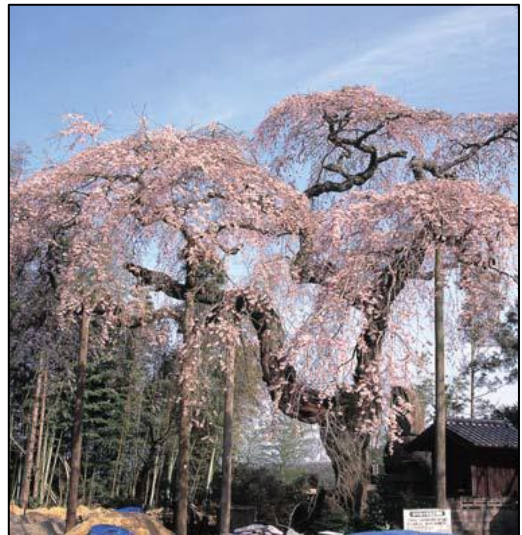
日本固有の樹木で、およそ1万年前の氷河期に若狭湾や伊豆地方で寒さを避けたスギが後氷河期になると、積雪地には細い葉のウラ系が、太平洋側には開いた葉のオモテ系が分布を広げました。この木はオモテスギ系です。まっすぐに伸びるので「すぐの木」と呼ばれ、神木として尊敬されています。



指定66 エノキ

- 所在地/三和町合戸字浮矢地内(地藏尊)
- 指定/S55.9.1
- 樹高/14.6m ■幹周/2.7m

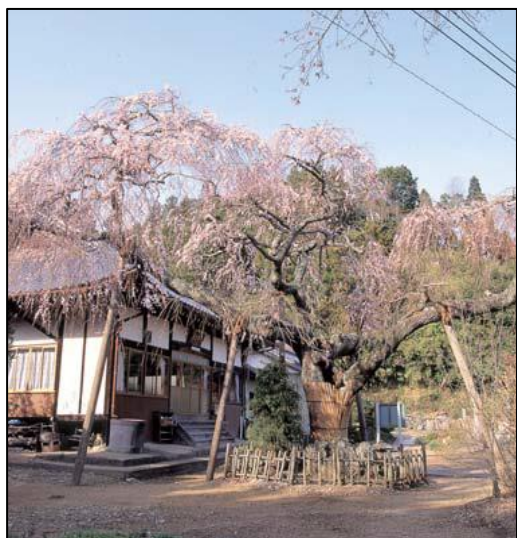
暖かい地方の樹木で北は宮城県まで広がり阿武隈山地では次第に少なくなっています。国蝶オオムラサキの幼虫は、この葉を食べて育ち、果実は小鳥の餌となります。昔、エノキは街道筋の一里塚に植えられました。この木は街道を往来する人々が休憩時に馬をつないだので、地藏尊は馬糞にまみれていたそうです。



指定67 シダレザクラ(エドヒガン)

- 所在地/四倉町下柳生字宮下13(柳生院)
- 指定/S55.9.1
- 樹高/10.3m ■幹周/2.6m

阿武隈山地に散在するエドヒガンの系統に属し、枝垂れる型の桜です。日当たりがよく肥沃な土地を好み長命です。花は小形で白く、ソメイヨシノよりやや早く開花し、昔から庭園樹として親しまれています。阿武隈山地では開花を農作業の目安にするために「種蒔桜」として小高い丘に植えている地域が散在します。



指定70 シダレザクラ(エドヒガン)

- 所在地/平上神谷字宮ノ上85(住善寺)
- 指定/S55.9.1
- 樹高/8.2m ■幹周/2.4m

阿武隈山地に点在し、ソメイヨシノよりやや早く開花するエドヒガンの枝垂れる型です。日当たりがよく肥沃な土地を好み長命で、花は白色・小形で、がくの基が膨らんでいます。昔から庭園に植えられ親しまれていますが、阿武隈山地のエドヒガンは小高い丘に植えられ「種蒔桜」と呼んで農作業の目安にしています。



指定80 フジ

- 所在地/四倉町字西四丁目4-5
- 指定/S55.9.1
- 樹高/2.2m ■幹周/0.9m

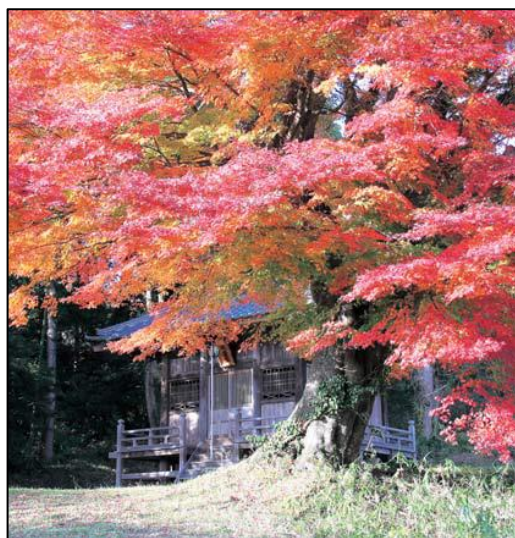
温帯に生育し他の木によじ登る樹木です。本来野生ですが、庭園や公園にも植えられます。マメ科の植物で根粒を持つので土地を選ばずに育ち長命です。房状に垂れ下がる蝶型の藤色の花は豪華で万葉の昔から人々に好まれてきました。



指定81 シダレザクラ(エドヒガン)

- 所在地/平大室字白土29(大運寺)
- 指定/S55.10.1
- 樹高/7.7m ■幹周/3.2m

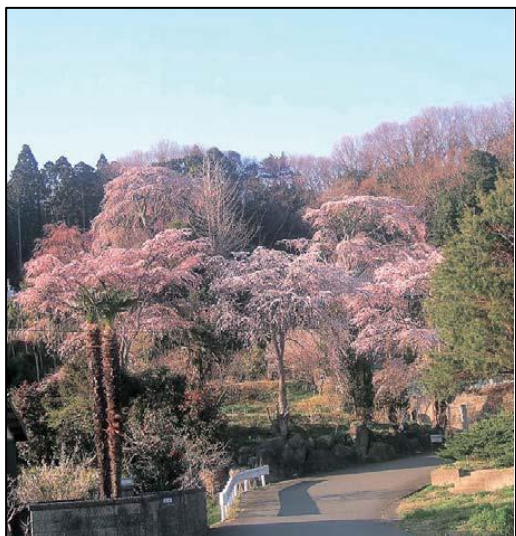
阿武隈山地に点在するエドヒガンの枝垂れる型で、日当たりのよい肥沃な土地を好み長命です。やや小形でがくの基が少し膨れる白い花はソメイヨシノより早く咲き、昔から庭園に植えられ親しまれています。この木は落雷で主幹が損傷した後、脇枝が代わって伸び始め元に戻りました。



指定91 イロハカエデ

- 所在地/遠野町深山田字川堀(川堀観音堂)
- 指定/H18.12.15
- 樹高/13.2m ■幹周/2.9m

葉をカエルの手足になぞらえてカエデと呼んだといわれています。個体変異が多く江戸時代以来園芸品種がつけられ、明治期には200種を超えました。秋、離層ができ強い日光で炭水化物が葉に湛り、夜急冷すると赤い色素に変化することから、寒暖の差が大きいほど鮮やかに色づきます。



指定92 エドヒガン(紫金桜)

■所在地/山田町蔵ノ内36(楞嚴寺)

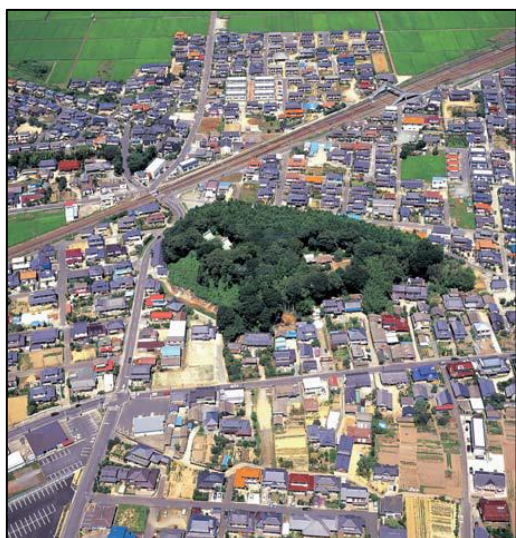
■指定/H18.12.15

■樹高/16.8m

■幹周/3.0m

ソメイヨシノより少し早く咲くので昔から小高い丘や寺社境内に「種蒔桜」として植栽されました。境内には枝垂れる型を含めて数株のエドヒガンがあり、花時の楞嚴寺は全山がエドヒガンで埋め尽くされます。花は小さく、がく筒がつぼ形に膨らむのが特長です。

3 保存樹林

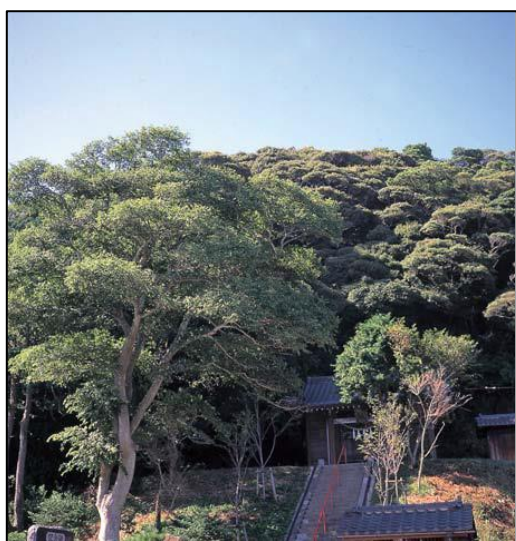


指定1 シイ・カシ林

- 所在地/平下神谷字宿183(花園神社)
- 指定/S53.3.10
- 面積/3,200㎡

いわき市のスダジイ林は日本の北限地帯のもので、縄文時代はこのような照葉樹林が丘陵や平地を覆っていたものと思われま

す。人間の活動が活発になるにつれ減少した林で、今は神社の森にしか残っておりません。花園神社の森は住宅に囲まれ市街地環境を守る上で大切な林です。



指定3 シイ林

- 所在地/平豊間字八幡町71(八幡神社)
- 指定/S53.3.10
- 面積/2,000㎡

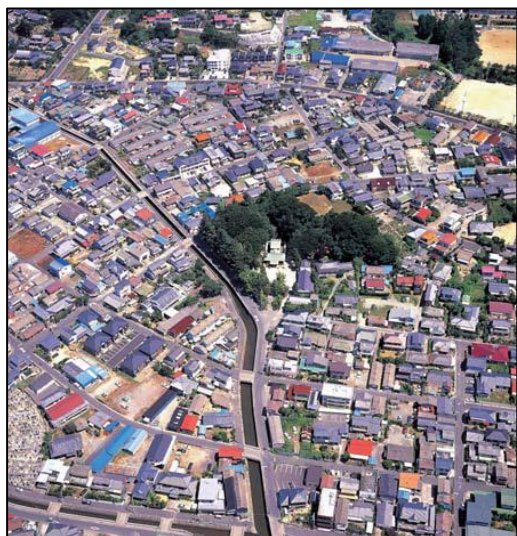
暖温帯照葉樹林の標徴種スダジイを優占種としたこの林は、日本の太平洋側分布の北限に近い樹林です。豊間は北西風が背後の丘陵で遮られ、黒潮の影響を強く受ける温暖な海岸地形域であることがスダジイ林を育てたと考えられます。



指定11 スギ林

- 所在地/高倉町鶴巻50(高蔵寺)
- 指定/S55.9.1
- 面積/3,000㎡

今から約1万年前の氷河期、若狭湾や伊豆地方で寒さを避けたスギは、その後日本全国へ分布を広げた日本の固有植物です。直幹の材は加工しやすく、その上香りがよいので建築や家具用材として重要視され植林が進みました。高蔵寺のスギ林は巨木ではないが、三重塔の荘厳な環境を醸成する役割を担っています。



指定13 ケヤキ林

- 所在地/小名浜諏訪町23-1(諏訪神社)
- 指定/S55.9.1
- 面積/3,000㎡

温帯の地下水位の高い肥沃な土地に育つ成長の早い樹木で大木になります。

小名川河口の沖積地はこの条件に合致した適地です。

ケヤキの大木は神社の荘厳な環境を醸成すると共に林床に照葉樹の稚樹を育み、この地域の気浄化等の重要な役割を担う市街地緑地です。



指定24 モミ・サワラ林

- 所在地/小名浜上神白字宮ノ作(磐城国造神社)
- 指定/H18.12.15
- 面積/5,000㎡

モミ・サワラ共に中間温帯の樹種です。
スギやヒノキが多い、いわき沿岸地域寺社林の中で、モミ・サワラを主にした林は特異的です。
また、巨木ではありませんが、大木群が醸す堂々とした樹林は壮観で、参詣する人々に安らぎと潤いをもたらすでしょう。



指定26 シイ・カシ林

- 所在地/渡辺町田部字油沢(北野神社)
- 指定/H18.12.15
- 面積/600㎡

暖温帯照葉樹林です。
この樹林は、スダジイを優占種にし、林内にアオキ・ヒサカキ・イヌガヤ・カシ類を含み、この地域の潜在自然植生がスダジイ林であることを証拠付けます。
境内東端のスダジイ板根は傾斜地に育ったために発達した根の典型的な形の好例です。

4 樹木について



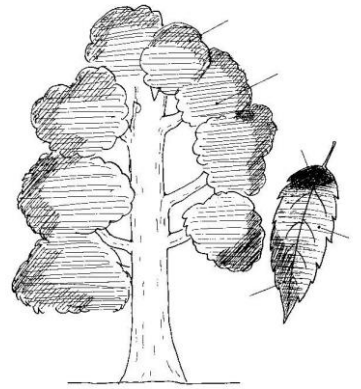
葉や枝は健康のバロメーター。
木は葉で光合成により栄養を作り出すので、葉がたくさん
ついている木ほど、栄養がたくさんつくられています。
木にとって、無駄な葉は一枚もありません。
栄養は枝から幹や根に運ばれ、幹や根を大きくさせます。

葉のつき具合の目安

木の下から見上げたとき、空が見えないほど葉が繁っていたり、外から眺めたときに、中の幹が見えないほど繁っていれば、その木は元気です。

葉と枝の関係

枝は他の枝から栄養をもらうことができず、その枝についた葉がつくる栄養しか利用できません。
葉がついていないと、枝に必要な栄養を送ることができないので、葉がついていない枝は、やがて全体が枯れてしまいます。



木の上の方の枯れ枝

木の上の部分は、日が当たり、木全体の中でもっとも元気な部分です。
ですから、この部分が枯れているのは、その木に重大な問題が起きていると考えられます。
上の部分が枯れているのは、その部分まで水分が届いていないことによります。

水分が届かない原因として

- ①根が傷んで、水や養分の吸収と押し上げる力が弱くなっている
- ②土が踏み固められて、細かい根が広げられない・土壌中の酸素が不足している
- ③根から葉までの間に何らかの傷があり、水が通らない

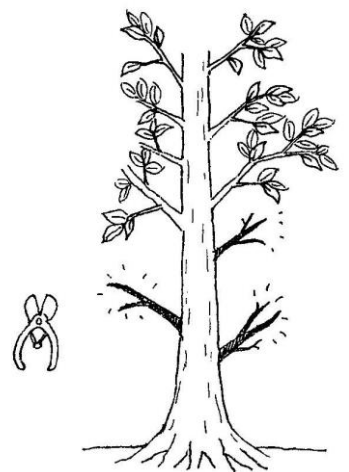
などがあります。

枝の剪定

枝を切ることによって

- ①その枝についている葉もなくなる
葉でつくられる栄養で幹や根も生きているので木全体が栄養不足になる
- ②切った切り口から病原菌が入り、幹や木全体が腐ってしまう場合がある

ですから、むやみに枝を切ったり（剪定）しないようにしましょう。

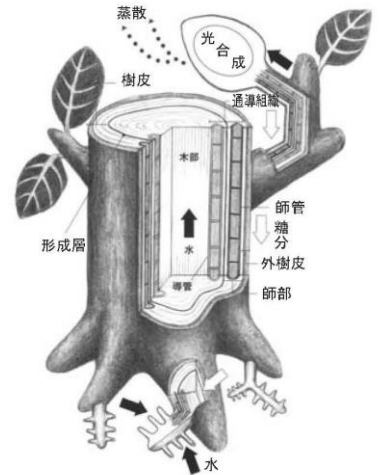




幹は、葉と枝を支え、葉でつくられた栄養を根に、根で吸い上げた水分や養分を葉に運びます。また、葉でつくられた栄養を貯蔵し、冬を過ごす際や木を成長させるのに使います。

幹のしくみと役割

葉でつくられた栄養は、年輪の一番外側にある師管・師部を通して、根に運ばれます。根で吸い上げられた水分や養分は、道管(広葉樹)・仮道管(針葉樹)を通して、葉に運ばれます。師管・師部組織の内側には形成層と呼ばれる層があり、形成層は細胞分裂により、内側に新しい師管・師部をつくり、肥大・成長していきます。

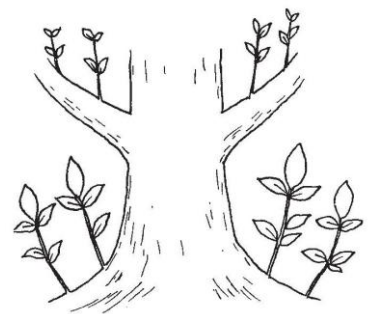


空洞について

幹の中心(材)部に、あまりに大きい空洞ができた場合、倒木する恐れがありますが、パイプ状構造になるので、それほど問題はありません。栄養や水分を運ぶ師部や道管など木の外側部分が腐るのは問題です。腐朽部分は治ることはありませんが、元気な木は自分で腐朽部分のまわりを急いで太らせて補強します。幹や枝の一部が膨らんでいる場合は、その内部が腐っている可能性があります。

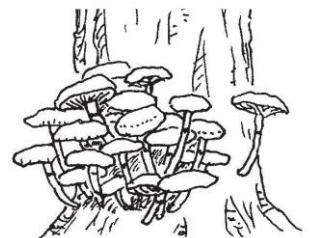
胴吹き・ひこばえ

幹の途中から出ている小枝を「胴吹き」、根元から出ているのを「ひこばえ」といいます。上の枝が枯れたり、病気になったりして、それに代わって栄養をつくるために出てきます。木の種類によっても出方は大きく異なります。



キノコなど

一概には言えませんが、キノコ・コケ・ツル・アリなどが見られる場合は、注意が必要なときがあります。





木にとって、根と土の関係は、水分やミネラルなどの養分を摂取するための重要な役割を担っています。また、根は木を地面に固定し、その体を支えます。土は、根が十分に張れる広さと深さがあり、落ち葉が掃き除かれずに、腐植が多い環境が理想です。

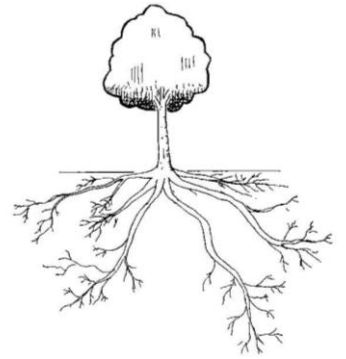
根について

根は地上の枝張りと同じか、それ以上の範囲にわたって根を張っています。

根は木の生長に必要な水分や養分を吸います。

大きな木になればなるほど、たくさんの水分を必要とし、根を大きく広げなければなりません。

水分や養分を吸うためには、たくさんの細かな根が必要です。



落ち葉

落ち葉はミネラルを含み、水を貯えるので、できるだけ掃かずに再び養分として利用できるように幹から離れた枝の下に置きたいものです。

ミミズなどの土壌生物は落ち葉を餌にし、粒状の糞を出して土壌を改良し、カビやキノコがミネラルに分解して、再び木の養分に利用しやすいようにします。

また、クッションとしての役割もあり、踏圧により地面が固くなるのを防いでくれます。

踏み固め

根は水やミネラルを取り込むのにエネルギーが必要です。

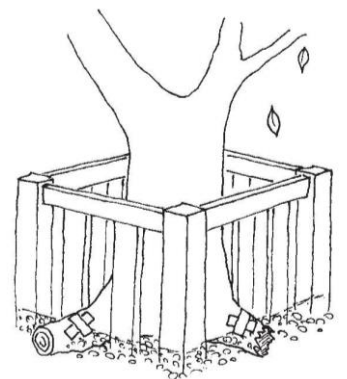
そのため、土の粒と粒の間隙にある酸素を吸収するのですが、踏み固まった土は隙間がつぶれ、空気から酸素が入りにくくなっています。

ですから、根は十分な酸素と水分を吸うことができず、木全体が弱ってしまいます。

ミミズやカビなどの土壌生物にとっても棲みにくく、木にとっても好ましくない土になります。

工事や柵など

近くで工事を行ったり、木を守るための柵も、あまり木の近くに設置したりすると、基礎工事の際に、根を傷つけたりするかもしれません。その他に、根への盛り土や排水不良なども、よくありません。



幹の傾きと根の関係

幹が傾いたり、その木が傾斜地にある場合、広葉樹は傾きの反対側に根を伸ばし、引っ張るように支え、針葉樹は傾いている側に根を深く伸ばし、幹を押し上げるように支えます。



5 保存樹木・樹林位置図

保存樹木

No.	樹木名	所在地
4	イチヨウ	錦町御宝殿81(熊野神社)
5	イチヨウ	錦町御宝殿81(熊野神社)
6	カヤ	平中塩字岸(熊野神社)
7	カヤ	錦町御宝殿81(熊野神社)
10	アカガシ	植田町八幡台2(八幡神社)
12	スダジイ	平上平窪字御殿
14	スダジイ	常磐下湯長谷町梅ノ房
15	クスノキ	平小泉字東164(瑞光寺)
16	クスノキ	錦町御宝殿31
17	ヤマナシ	内郷小島町花輪
18	モチノキ	錦町大島33
21	ケヤキ	錦町御宝殿81(熊野神社)
22	ケヤキ	植田町八幡台2(八幡神社)
23	サカキ	渡辺町中釜戸字滝ノ沢1(諏訪神社)
27	ヒイラギ	平下神谷字宿183(花園神社)
31	クロマツ	平原高野字高原62(天照皇大神社)
32	クロマツ	四倉町字西二丁目4-12
33	クロマツ(青龍の松)	久之浜町久之浜字中町16(諏訪神社)
34	スギ	常磐藤原町小坂境48(藤波神社)
35	イチイ	三和町中三坂字北之内53
38	キャラボク	川前町小白井字大小屋3
40	イブキ	久之浜町田之綱字横内16
41	イチヨウ	勿来町酒井出蔵142(蔵皇神社)
43	イチヨウ	三和町合戸字内畑35(光福寺)
45	アカガシ	常磐藤原町田場坂125(法海寺)
46	スダジイ	平中平窪二堂田29
47	クスノキ	平山崎字梅福山5(専称寺)
48	ケヤキ	平字九品寺町6-1(九品寺)
49	ケヤキ	平字九品寺町6-1(九品寺)
50	イロハカエデ	常磐藤原町田場坂125(法海寺)

保存樹林

No.	樹木名	所在地
55	イロハカエデ	田人町石住字銅木
56	ヤマザクラ(石割桜)	田人町旅人字横根
57	カツラ	田人町旅人字和再松木平
58	イチヨウ	平塩字宮前地内(福一満虚空蔵尊)
59	イチヨウ	内郷御殿町久世原地内(茂天木稲荷神社)
60	スギ	平下平窪字諏訪作地内(諏訪神社)
61	スギ	勿来町窪田馬場72(国魂神社)
62	スギ	遠野町根岸字標場地内(諏訪神社)
63	スギ	三和町合戸字浮矢地内(地藏尊)
64	スダジイ	四倉町下柳字字宮下13(柳生院)
65	スダジイ	大久町大久滝ノ尻地内(筒木原不動尊)
66	クスノキ	平上神谷字宮ノ上85(住善寺)
67	クスノキ	平塩字宮前地内(熊野神社)
68	ヒイラギ	山田町仁谷地内(朝日観音)
69	スダジイ	四倉町字西四丁目4-5
70	フジ	平大室字白土29(大連寺)
71	シダレザクラ(エドヒガン)	三和町上三坂字本町118(綿津海神社)
72	トチノキ	好間町川中子字愛宕東(愛宕神社)
73	イチヨウ	好間町川中子字愛宕東(愛宕神社)
74	イチヨウ	好間町川中子字愛宕東(愛宕神社)
75	キンモクセイ	鹿島町下蔵持字戸ノ内
76	ブナ	三和町上三坂字芝山
77	クスノキ	内郷高野町表(高野鹿島神社)
78	スギ	平上荒川字大野
79	イロハカエデ	遠野町深山山上字川堀(川堀観音堂)
80	エドヒガン(紫金桜)	山田町蔵ノ上36(標蔵寺)
81	キャラボク	小名浜字古湊10
82	スダジイ	常磐湯本町三宮322(温泉神社)
83	ヤマザクラ	内郷高野町阿町地内
84	ユウゼンニレケヤキ	常磐藤原町田場坂98

No.	樹林名	所在地
1	シイ・カンシ林	平下神谷字宿183(花園神社)
2	シイ林	平豊間字八幡町71(八幡神社)
3	シイ・モチノキ林	勿来町四沢伊勢林1
4	シイ林	平字旧城跡(三の丸)
5	アカマツ林	平窪田字岸(窪田山)(五霊神社)
6	シイ林	常磐下湯長谷町梅ノ房
7	ケヤキ林	小川町塩田字北沢
8	スギ林	高倉町鶴巻50(高蔵寺)
9	ケヤキ林	常磐下船尾町古内地内(熊野神社)
10	ケヤキ林	小名浜諏訪町23-1(諏訪神社)
11	シイ・カンシ林	平下平窪字山根39(安養寺)
12	スダジイ林	平上荒川字五郎内156(医王寺)
13	スダジイ林	小名浜金成字前田51
14	カンシ林	常磐関船町諏訪下9-1(諏訪神社)
15	イチヨウ・アスナロ林	川前町上桶売字宮下76(熊倉神社)
16	スギ林	三和町差塩字大久保(諏訪神社)
17	ケヤキ・スギ林	内郷綴町高野作(北郷堂観音)
18	シイ・カンシ林	鹿島町下矢田字大作138(真浄院)
19	シイ・カンシ林	小名浜上神白字宮ノ作(磐城国造神社)
20	シイ・カンシ林	小名浜住吉字住吉1(住吉神社)
21	シイ・カンシ林	渡辺町田部字油沢(北野神社)
22	ケヤキ・スギ林	川前町下桶売字蔵ノ上29番地

お問い合わせ

いわき市役所 都市建設部 公園緑地課

〒970-8686

福島県いわき市平字梅本21

TEL :0246-22-7518

FAX :0246-22-7568

Email:koenryokuchi@city.iwaki.lg.jp

一般財団法人 いわき市公園緑地観光公社

〒972-8321

福島県いわき市常磐湯本町上浅貝110-33

TEL :0246-43-0033

FAX :0246-43-1401

Email:info@iwakicity-park.or.jp

参考図書

堀 大才 岩谷 美苗 (2002)

『図解 樹木の診断と手当て-木を診る 木を読む 木と語る』 農文協

山本 光二 (2001)

『樹医をめざすあなたへ 樹木診断ハンドブック』 Gakken

堀 大才 監修 (1999)

『木のお医者さんになってみよう!』 日本樹木医会



発行：いわき市役所 都市建設部 公園緑地課
令和8年度版